

# 山梨県神社庁報

# かみがね

祝祭日には国旗を掲げましょう



2月11日 建国記念の日  
 2月23日 天皇誕生日  
 3月20日 春分の日  
 4月29日 昭和の日

令和7年新春号 (第208号)



## 神宮大麻曆頒布始祭 (山梨県神社関係者大会)

山梨県氏子青年協議会	山梨県神道雅楽会	山梨県敬神婦人連合会	山梨県神職保護司会	山梨県女子神職会	山梨県教育関係神職協議会	山梨県神道青年会	神道政治連盟山梨県本部	山梨県神社総代会	録事	主事	主事	参事	監事	顧問	顧問	総代理事	総代会会長理事	同	指名理事	教化委員長理事	協議員会議長理事	神政連本部長理事	同	同	同	同	同	同	同	支部長理事	本庁評議員理事	同	副庁長	庁長	
役員	役員	役員	役員	役員	役員	役員	役員	役員	佐藤	深澤	金子	飯田	佐々木	根津	羽中	坂本	小尾	土肥	金子	乙黒	桃井	渡邊	中村	宮下	石原	内藤	山本	植松	日原	秋山	上文	小山	古山	小佐野	史
同	同	同	同	同	同	同	同	同	忍	彦	紀	樹	仁	昇	進	正	武	宮	元	洋	祝	郎	彦	範	夫	隆	司	芳	幸	也	厚	行	弘	史	

謹賀新年

### 敬神生活の綱領

神道は天地悠久の大道であつて、崇高なる精神を培ひ、太平を開くの基である。神慮を畏み祖訓をつぎ、いよいよ道の精華を發揮し、人類の福祉を増進するは、使命を達成する所以である。

ここにこの綱領をかかげて向うところを明らかにし、実践につとめて以て大道を宣揚することを期する。

- 一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまことを以て祭祀にいそしむこと
- 一、世のため人のために奉仕し、神のみこともちとして世をつくり固め成すこと
- 一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世界の共存共栄とを祈ること



### 年頭挨拶

年頭挨拶  
 小佐野 正史  
 庁長

新年あけましておめでとうございます。

皇紀二六八五年、令和七年乙巳年を言祝ぎ皇室の弥栄と世界平和、そして皆様の平安をお祈り申し上げます。

令和六年は元日から能登半島地震に加え、九月の豪雨で被災された皆様に改めてお見舞い申し上げますと共に、被災地の日も早い復興をご祈念申し上げます。

昨年は各支部を通し、山梨県神社庁の運営に多大なご協力を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

本宗と仰ぐ神宮の御事につきまして、ましては、殊に昨年四月八日に第六十三回神宮式年遷宮の御齋行について天皇陛下よりご聴許を賜り、愈々ご準備が本格的に執り進められてゆくこと、洵にご同慶の至りであります。私共と致しましては古来、皇室第一

の重事、神宮無双の大典とされて参りましたご遷宮が、古式ゆかしく齋行されるべく、神宮奉賛の機運を昂めていくことに全力を注いで参る所存です。

神宮大麻暦頒布につきまして、増体に向け関係各位のご尽力を賜りました。尚一層の神宮奉賛と第六十三回神宮式年遷宮の御盛儀を目指し、更なる啓発に努めてまいる所存であります。

大きく制限された社会生活も日常を取り戻しつつある一方で、過疎化による人口減少、少子高齢化により人々の価値観と生活の有り様が劇的に変化し続ける今、斯界を取り巻く現状は厳しさを増し、神社護持に大きな影響が及ぶことが憂慮されます。

日々変化する社会の中で、この先も変わらぬ信仰を集め、神社を護持していけるか否かは現代の我々の取り組みに懸かっていると、いつても過言ではありません。

皆様におかれましては、神社が地域で何か役割を果たしているには、何をすれば最適かを地域ごとに計り、関係者一丸となつて地道に活動していくことが必要でありましょう。地域社会の心の拠り所としての役割を担ってきた神社の祭祀祭礼を賑々しく齋行し、神社と地域を元氣になればと考えます。

神社庁に於いても、人々の精神的紐帯である神社の歴史と伝統を支えに、今一度我々が本来果たすべき使命と役割を確認し、五年先、十年先を見据え、更なる発展のために力を尽くして参りたく存じます。

本年は昭和百年、終戦から八十年の節目の年でもあります。激動の時代に想いを致し、感謝と哀悼の誠を捧げると共に、自然災害が多発する昨今、巳年にあやかつて世の中が元氣に復活再生することを切に願っております。

結びに、本年が皆様方にとつてご健勝ご多幸であられますようご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。





# 新春を迎えて

山梨県神社総代会

会長 小尾 武

明けましておめでとございます。本年も宜しくお願い申し上げます。

令和七年皇紀二千六百八十五年の輝かしい新春を迎え皇室の弥栄と神社関係者の益々のご繁栄をご祈念申し上げます。畏くも天皇・皇后両陛下におかせられましては、天機愈々麗しく日々御公務にあたり精勵遊ばされておりますこと慶賀に堪えない次第です。

天皇陛下におかれましては、常に国民の幸せと国の繁栄、更に世界の平和をお祈りされておられますこと国民に心を寄せられておられることは誠に有難き幸せでございます。

天皇・皇后両陛下には昨年石川県能登半島被災地に何度かお見舞され、被災地の皆様も元気をいただいたことと思います。

山梨県神社庁でも義援金を募り拠出したしましたが復興には程遠く感じられます。今後も出来る限りの支援を行いたいと存じます。

不活動神社対策の件につきましては少子高齢化・人口減少が更に続き、山間地域の住民は高齢化し若者は地元を離れ都市部に移り高齢者がなんとか神社を守っている状況の中、県内には不活動神社が二百社以上有ると言われております。住民がおる内に対応するべきかと思っております。神職・総代の皆様と共に手を携え解消に向けて努力して参りたいと存じますのでご協力をお願い致します。

国旗掲揚推進の件につきましては、掲揚活動のお声掛けが大切かと思っております。国旗掲揚運動は我々神社界が大きな声をあげて推進してゆかねばなりません。支部長・総代会長さんを中心にして各支部で協力を押しすすめていただきますようお願い申し上げます。

結びにこの一年を着実に歩み良き年であることと関係神社のご発展と皆様方のご健勝ご活躍をお祈り申し上げ挨拶いたします。

神社本庁定例評議員会が十月二十四日に開催され、当県からは小佐野庁長、小尾県総代会長、私の三名が出席した。

# 本庁十月定例評議員会

本庁評議員 上文司 厚

評議員数が一四五名であることとを告げて議事が開かれた。議事録署名議員指名、続き令和五年度五月定例評議員会における評議員提出決議案件等の処理結果につき小野貴嗣常務理事が説明、意義なく承認された。次に令和五年度本庁業務報告が同常務理事よりあり、この件も意義なく承認された。次いで令和五年度の本庁会計に係る各種の決算、収支計算書、財産目録につき田中恒清総長が概要を香取大信財政部長が詳細を説明、続き河村基夫監事が監査報告を行い、質疑応答の後原案通り可決された。次に役員進退に関する規定の一部を変更する規定案について、鶴岡八幡宮が本庁離脱したので別表神社から削ると

総務部長が説明、離脱の理由を尋ねる質問もあったが正確にはわからないと結論し、原案通り可決された。次に代表役員地位確認請求訴訟について荒井実総務部長が経過説明、菅原高穂理事が提訴した裁判につき十月二日に最高裁が上告を棄却し判決が確定したこと等を報告、これに対して所謂総長指名問題についての相反した激しい主張の意見が様々に出た。長時間喧々囂々となったが、議長が本件は臨時役員会で審議するとし質疑を打ち切り報告の通り承認された。次に常任委員補欠選挙、自由討論の後、議事は終えた。総長そして総務の挨拶があり神殿を拝礼し全日程を終了した。

私はここ三カ年に延べ六回の評議員会に出席したが、毎回総長問題で議場は紛糾した。本庁の業務や財政について審議するのが評議員会の第一義であり、全国の神社が健全に経営して行く根幹であるので、総長の選任に関する事は評議員会の最重要な事ではないと思う。

評議員会に出席したが、毎回総長問題で議場は紛糾した。本庁の業務や財政について審議するのが評議員会の第一義であり、全国の神社が健全に経営して行く根幹であるので、総長の選任に関する事は評議員会の最重要な事ではないと思う。

### 神宮新穀感謝祭

東山梨支部

支部長 日原盛幸

昨年の十一月十二日・十三日、小佐野正史山梨県神社庁長を始め、県内各地から約七百名がバス十八台で伊勢神宮新穀感謝祭参拝旅行を行った。当支部からはバス一台三十名が参加した。

この感謝祭は、伊勢神宮崇敬会が昭和三十一年、戦後の復興期に於いて、物質的な豊かさだけでなく、精神的な豊かさを再認識し、また日本の伝統文化や自然崇拜・農耕文化に根ざした感謝の心を育む事を目的として始めた行事で、今回七十回を数える。

南都留支部

北口本宮富士浅間神社 権禰宜

萱沼延浩

令和六年、天皇陛下より次回運営について「御聴許」を賜った意味深き良き年の十一月十二日・十三日両日、南都留支部の事業として神宮新穀感謝祭に、小佐野正史庁長をはじめ宮下重範南都留支部長ほか総勢二三四名の参加を得る中、バス七台により南都留各地より、早いところでは早朝四時半の集合により伊勢へと向かいました。新東名

高速道路駿河湾沼津サービスエリアにて全車両集合の後、一路伊勢路へと新東名・東名阪・伊勢道を滞ることなく安全に進み、午前には予定どおり、豊受大神宮御垣内参拝と多賀宮遙拝を無事終了。午後には、五十鈴川の清流を感じながら宇治橋を渡り皇大神宮御垣内参拝と荒祭宮を遙拝の後、御神楽奉納を終え、新たに清々しい思いをいたしました。その後は参加者銘々思い思い境内散策を楽しまれたことと思います。小生は奉務神社縁りの大山祇神社と子安神社を総代の皆様方と参拝をさせて頂きました。夕刻、鳥羽に宿泊、支部の懇親会では、各神社の余興に花を咲かせ有意義な時を過ごすごすことが出来ました。翌日は、齋宮に向かい、日本の古代から南北朝時代にかけて、伊勢神宮にご奉仕された齋王の御所を見学させていただき齋宮の広大な境内の範囲には驚かされましたし、興味深かったのは再現サイネージの中、齋王の祭儀で御幣を奉るところが同じ御垣内まででそれを童子が受け捧げるイメージでした。また、悠久の神宮に係わる宿命の重さを垣間見ることが出来ました。途中、三重県商業リゾートVISIONにて昼食・休憩をゆつくり取り、そのうち世界遺産富士の御山を目指し帰路となりました。

### 神殿新嘗祭

東八代支部 支部長

植松真芳



去る十一月七日、山梨県神社庁神殿に於いて令和六年、神殿新嘗祭が小佐野神社庁長、坂本県神社総代会副会長を始め、県内神職、氏子総代参列のもと、東八代支部奉仕にて斎行された。

祭典奉仕員は、齋主 甲斐奈神社宮司中川武仁、副齋主 天神社宮司渡辺英明、祭員 中尾神社宮司田村かおる、浅間神社権禰宜津金善美、浅間神社権禰宜中村陽宏、典儀 植松。雅楽奉仕は山梨県神道雅楽会、以上の奉仕員である。

祭典は式次第に則り斎行され、無事終了した。

祭典当日に向け習礼を何度か開き、普段はあまり気にとめない



細かいところにも作法確認が要されるなど、浅学である事に気付かされます。祭員同士で確認、話し合いがされ、よって調和が計られる等 支部員に取っては良い時間になりました。この神殿新嘗祭が終わると翌週には恒例の「新穀感謝祭 神宮参拝」の旅が開催され、支部としても大きな行事が続きます。神宮に於かれましては、本年天皇陛下より「御聴許」を賜り、第六十三回神宮式年遷宮が正式に斎行される事になりました。当支部と致しましても今後更に「お伊勢参り」に尽力して参りたいと思います。



# 神社関係者大会

東山梨支部 支部長 日原盛幸

去る十月二十二日（火曜）、令和六年度山梨県神社関係者大会が、山梨県YCC文化ホールにおいて開催され、県内各地から約六百名が参加した。

大会は二部に分かれ、第一部では神宮大麻暦頒布始祭が斎行され、第二部では関係者大会式典が開催された。

神社庁で斎行される祭儀の中で、神殿例祭を除く祈年祭・新嘗祭・神宮大麻暦頒布始祭は八支部で順次奉仕している。今回の神宮大麻暦頒布始祭は東山梨支部の担当で斎行した。斎主は氷川神社高野正興宮司が、祭員は女子神職二名を含む五名で奉仕した。何れの神職も各神社の祭典では一人奉仕が多いため、習礼では複数人での連携作法を重点に念入りに確認して祭儀に臨んだ。

伶人は、恒例により山梨県神道雅楽会秋山忠也会長以下会員六名が勤め、優雅な調べで祭儀を引き締めると共に、山梨県女子神職会四名による雅な「豊栄

の舞」が祭典に花を添えた。

午後一時、第一部神宮大麻暦頒布始祭は、修祓に始まり、式次第に従い、厳粛に執り進められた。最後に、神宮大麻並暦が各支部長が並ぶ中、斎主より庁長に渡され祭典を終えた。

この後続いて、神宮禰宜木本雅文様の講話があり、神宮の諸行事協力への感謝と、第六十三回遷宮の諸儀が始められつつあることが話された。

第二部の式典では、古屋真弘副庁長の開会の辞が始まり、神宮遥拝、国家「君が代」が斉唱され、乙黒洋教化委員長の先導による敬神生活の綱領唱和の後、小佐野正史庁長より式辞が述べられた。続いて、小尾武総代会長より挨拶がなされ、この後、飯田直樹参事より「かひがね」を資料に庁務報告が行われた。

功績者表彰では、神社庁表彰規程に基づき、厳正なる選考と審査により次の通り決定した。令和六年度山梨県神社庁規程表

彰者七名に対し、代表者日原瑞枝氏が登壇し、小佐野庁長より表彰状が授与された。次に、山梨県神社総代会表彰規程に基づき、厳正なる選考と審査により、令和六年度山梨県神社総代会規程表彰者二名が表彰され、代表者相原勝仁氏が登壇し、小尾総代会長より表彰状が授与された。次に神社本庁規程表彰四名に対し、代表者石原英司氏が登壇し、神社本庁統理鷹司尚武様御名代神社本庁総長田中恆清様より表彰状が伝達された。次に、

全国神社総代会規程表彰者二名に対し、代表者三枝正満氏が登壇し、小尾総代会長より表彰状が伝達された。次に、神宮大麻暦頒布優良奉仕者九名に対し、代表者桃井一祝氏が登壇し、神宮大宮司久邇朝尊様御名代神宮禰宜木本雅文様より表彰状が伝達された。最後に、めでたく米寿・卒寿を迎えられた五名の神職に対し、小佐野庁長より心の籠ったお祝いの記念品が贈呈された。

この後、来賓の祝辞があり、神社本庁統理鷹司尚武様御名代神社本庁総長田中恆清様、神宮大宮司久邇朝尊様御名代神宮禰

宜木本雅文様、参議院議員有村治子様、参議院議員赤池誠章様から祝意が述べられた。続いて来賓の紹介、祝電の披露があり、被表彰者を代表して牛倉神社総代石原英司氏より謝辞が表された。次に、坂本総代理事先導で聖壽の万歳が奉唱され、小山利行副庁長の閉式の辞を以って盛会裡に大会を終えた。



# 全国教化研修会

教化委員会 広報部長 渡 辺 千 紗

「社会福祉を通じた神社の活性化と地域共同体の再生」を主題とする全国教化会議が、令和六年十一月二十八、二十九日の両日に亘り神社本庁で開催され、全国神社庁の教化担当者ら約九十人が出席した。

開会式の後、牛尾教化部長から本庁報告があり、教化実践目標の確認、教化広報資料活用目標と現在作成中の神葬祭冊子について意見を求められた。また来年の終戦八十周年の啓発、本庁英語版ウェブサイトの改訂や、由緒書きの英語版を無料作成している他、初詣勸奨CM制作の報告、神社名の差替も含めて無償提供する用意がある旨、説明があった。

続いて國學院大學神道文化学部教授藤本頼生氏が「教化活動と『福祉』を考える」と題し基調講演。「福」「祉」の語義はいずれも「幸せ」であることを説いた上で「祭そのものが地域・人々の幸せのためのもの」という見解を述べられた。神社によ

る社会貢献活動の重要性と実現するための協力者も必要であると語られた。

基調講演の後、一般社団法人代表理事で福井・宇波西神社権禰宜の須磨航氏が「神社における居場所活動」と題して事例報告を行った。

その後七つの分散会で多岐に亘り討論が行われ、意見集約を以て二日目の全体会となった。各会の報告は斯界の発展と啓発に取り組み熱意溢れるものだったが、それらの報告を受けて本庁教化講師石井氏は神社側が主流と思う活動が、変動著しい社会全体で見たときには傍流とされるのではと指摘、同じく加藤氏は「氏子意識の涵養」こそ肝要と述べられ、最後に座長櫻井氏が神社に最も関わる「心の満足」という文化的需要に基づき福祉的な教化活動に多様性があったてよいことなどを語られて結びとなった。

この度は実りある会に出席させて頂き感謝申し上げます。

# 山梨県神社総代会研修会

総代会 副会長 坂 本 宗 正

永きにわたるコロナ禍の終息がようやく見えつつある中で、この度山梨県神社総代会の研修会が開催されました。会場として古名屋ホテルにて十一月二十五日午後二時より研修会が行われ、四時より懇親会が開かれました。まず始めに小尾会長の挨拶があり、研修会について、ここ数年研修会を中止にしており、今年度は必ずや開催したいとの強い熱意と信念を抱き開催されました。今後三年間に一度、多くの役員並びに各総代会の会長、副会長の出席者をお願いし開催を行いたいとの思いを述べられました。

続きまして、小佐野庁長よりの挨拶があり、現在神社界並びに、各神社祭典につきまして、事細かくお話を説明され、不活動神社又は法人との関係につきお話をいただきました。本日の講演講師、神社本庁広報部部长牛尾淳先生より、全国的に高齢化が進み行く中で、人口の減少に伴い神社並びに氏子総代に至るまで、現状よりこの先二十年

〜三十年今後どの様に変化するか、映像と数字にて、事細かく説明を頂き現状より約三分の一ほど少なくなる姿に、あ然とさせられました。又、神事にお仕えする神職の皆様に対しても同じく減少して行くとの説明もなされました。

今回この研修内容を参考資料としまして、皆様の温かい熱意に、ご支援ご協力を頂き総代皆様一致団結を宜しくお願いを申し上げます。神明ご奉仕に勤め、町の発展の為に、又日本固有の伝統文化で有ります、「日本の祭り」を守り行き、今後も頑張りたく思っております。





絵本日本の神話  
 神武天皇（第五話）



お子さん、お孫さんと、  
 神話の世界をお楽しみ下さい。

「一般財団法人 日本文化興隆財団」提供  
 問い合わせ 東京都渋谷区千駄ヶ谷四一五十一  
 電話 〇三―五七七五―一一四五  
 一冊 二〇〇円





す んど、どこからともなく

金色のトビが飛んできて、  
弓の先に止まりました。  
そしてピカッと光ったのです。

「うわーっ、目をやられたー！」

ナガスネヒコたちは  
うずくまってしまいました。  
そのすきに一気に攻めて、  
ナガスネヒコをとらえました。

「まいった、降参ですー！」

とうとうイワレヒコ軍が勝ったのです。  
「ばんざーい、ばんざーい、！」





**イ**ワレヒコはちかいました。

「死んでしまった兄やなかまの命を  
むだにしないように、よい国をつくらう。」

イワレヒコは

神武天皇と呼ばれるようになりました。

神武天皇は、その後も日本が

平和な国になるように

いっしょうけんめい努めました。

そして、今でも国を建てた天皇として

尊敬され続けてます。

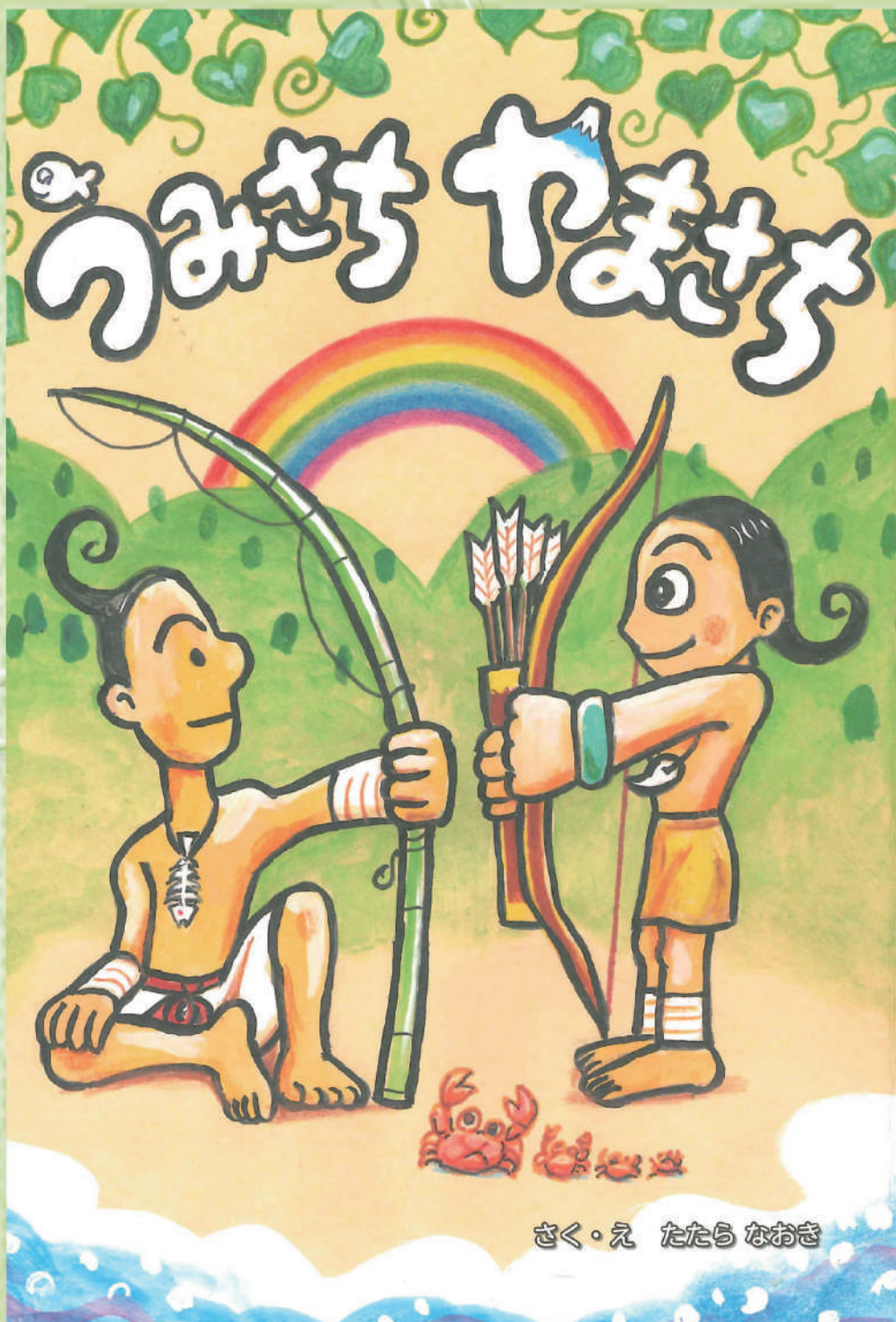
（神武天皇が即位したのが、今から二六八〇年ほど前の  
二月十一日だったので、二月十一日は

「建国記念の日」として国民の祝日になっています。）



おわり





(二〇九号より「うみさちやまさち」を掲載いたします。)



# 支部だより

## 峡北支部

副会長 佐野光一

私が役員をしている宇波刀神社は韮崎市田野町の鎮守の森に佇む氏子が一三〇位の小さな御社です。一三〇〇年の歴史があり、先人達が大切にお守りしてきた産土の神の御社です。

人は靈魂と身体が一体となって働くことに依って生きて居り、古代では靈魂のことを天津御魂と云い、肉体のことを水穂の氣と呼んでいた様です。その肉体を造る素材が地球の中心にいらつしゃいますイザナミの命様に依って産土路を通って地上に吹き出て来る。その吹き出し口が神社の建つて居る所であります。そこを穢されない様に古代に於いては巨石を以て囲み、現在に至るまで清浄を保つておられます。その素材を元につきたてふなどの神をはじめとする産土の神々が人間の身体を創造

し、オギャーとの産声と共に魂詰めされて人として初めてこの世に生まれ、この世での使命を果たせる様に導き守って下さるのが人間にとって大切な産土の神です。その大切な神様の働きを忘却してしまつて居るのが現代です。

神社の役員の任期は四年ですが任期中は例大祭の準備等に熱心に参加し活動しますが、任期が終わり役をおりとパタッと大祭にも参列せず、神社にも来なくなる方がほとんどです。それは人は何故神を拜むのかの理解が出来て居ないからです。

最後に宇波刀神社では正月元旦の歳旦祭の神事後、出席者全員が太陽に向かって、一年の地域家庭の安全を願ひ万歳三唱をして会をしめます。これは良き習慣であり後世へ伝えて行くべきものであると思います。

吾々は神々と共に生き、常に神々の御加護を受けて居るのだと感じ悟ることが一番大切なこととあります。

## 北都留支部

副会長 小宮眞藏

北都留神社総代会は、大月市、上野原市、丹波山村、小菅村に鎮座する百三十六社からなる神社総代で構成されております。年に一度の総会、数度の理事会において運営されておりますが、令和六年は、七月二十四日に、古屋副庁長、小尾県総代会長ご臨席の中開催されました。また、神社庁の行事である山梨県神社関係者大会には、バス二台を手配し三十五名で参加したところとあります。神社総代の

大事な役目として神宮大麻頒布のご奉仕がありますが、当総代会においては、十一月一日、上野原の牛倉神社において中村北都留支部部長齋主のもと、小佐野庁長ご参列の中に、北都留支部神宮大麻並びに歴頒布始祭が厳粛に斎行されました。その後の直会では、各神社の頒布の仕方や方法等について意見が交わされ大変有意義なものとなりました。私の奉仕する三嶋神社は、

大月市の中心地である大月区、御太刀区、駒橋区、沢井区からなり氏子戸数は約二千戸程になります。二十六の自治会に総代を選出して頂き各総代の責任において頒布をお願いしているところではありますが、当大月市においても人口減、世帯数減がとどまることを知らず、残念ながら年々減体が続いているのが現状です。北都留支部内においても各社の宮司さんや神職さんの指導のもと減体を最小限に抑える努力を重ねておりますが、なかなか結果につなげることができません。また、支部内において老齡化等により氏神様のお祭が出来無い所もあると聞いております。この様なことが大麻頒布にも影響することが懸念されます。今後、私達総代会は、坂本会長を中心に会員相互の連携を密にし、共通の課題を克服するために、神職さん方と協力し合いながら、各神社の護持運営に努めてまいりたいと思ひます。

# 被表彰者抱負

## 神社庁規程表彰

諏訪大神社

宮司 日原 端枝



この度は思いがけず表彰の栄に浴し大変恐縮しつつも、我が身もそれなりの年月を神明にご奉仕させて頂いてきたことの責任を実感する事となりました。

初めて國學院大学へ直階の講習を受けに行つたのは、平成十六年三月、久々の学生生活に心躍るも、三十日間で初めての祭式を遣幣使随員の所作までテストされるという厳しさに、必死に過ごしました。

翌年には権正階の講習会へ皇學館大学へ行きました。神宮の地伊勢は照葉樹の参道や神明造りの鳥居や御社が点在する美しい土地でした。毎朝の倭姫宮への参進と朝拝、寄宿舎生活で

よく祝詞作文の宿題をこなしたことが想い出されます。

実務研修では、地元へ戻り一宮の浅間神社様にお世話になりました。神輿渡御に付随する神職の心構え、邪気祓いに臨む気構えなどに至るまで、先輩方から受けた教えは心に深く残っております。

家に戻って結果的には四年間、父を手伝い各神社を回らせていただきました。拝殿本殿の構造による臨機応変や独特の神事やその準備、手作りのお札や荒神様の準備など、年間仕事を記録にとりながら覚えていきました。既に妹も資格をもち、夫も資格をとり、次第に弱っていく父と共に行動し、できる限りの事を教わりました。

父が他界して早や十六年、当初は長老の総代様方の前で若き女性宮司がどのように振るまえばよいか気遣いに疲れる事もありましたが次第に慣れ、季節で繰り返される神事や準備に追われる中で、当初見えなかった

父や祖父の残した工夫や努力の跡に出会う事があり、現今は自分がその最中に在る事の責任を実感する日々を過ごしております。

## 山梨県総代会規程表彰

酒折宮

責任役員 小野 俊夫



令和六年十月二十二日山梨県神社庁より神明奉仕の功績で表彰されました。名誉のことと深く感謝を致しております。

当日表彰式の会場に入った瞬間びっくりしました。舞台上、祭壇が厳肅に整然と設置されており、祭りが順次行われ緊張と同時に、感激でいっぱいになりました。終了し会場を出たあとは、何か心が洗われたようで、すがすがしい気分になりました。当家は酒折の地で千年以上続いていっていると伝えられています。

戦前は皇族の方々が酒折宮へ参拝するのがならわしで、その折は皇族の方々の休憩所となっていたそうです。又明治三年生まれの祖父は生まれた時に神の使いとされていた鹿が近くで鳴く声が聞こえたので、鹿吉と命名され、長く酒折宮の総代を務めていたとのことでした。

酒折宮の責任役員として数年たちますがお宮の社報「れんが」を拝読するうちに、諸祭典の準備及びお祭に参加することが楽しく感ずるようになりました。当時小学一年生の孫の下校時の引渡場所が酒折宮でしたので私が毎日迎えていました。

早めに行つて境内を散策することにしました。ある日鳥居の拝殿側に大きな神明燈が二基あり何時設置したのか調べたところ筆頭に祖父の名前が刻んだあるのを発見し感激しました。

十二月で八十五歳となりましたが、神明のご奉仕がんばりたい所存です。



神宮大麻頒布優良奉仕者表彰

美和神社

高桃 井 一 祝



この度神宮大麻頒布特別表彰の受彰という名誉に浴しまし、誠に光栄に存じます。

宮司就任以来大麻頒布に従事していますが、ここ数年は減体となっております。頒布奉仕の形は①神職頒布②総代頒布③社頭頒布ですが、②の社を通しての総代頒布が難しくなっています。総代の任期が短くなり、総代一人一人への教えが行き届かなくなっています。本庁作製の頒布奉仕者向けリーフレット等を利用してはいますが非常に厳しいです。

全体的にみれば、過疎化・少子高齢化・総人口の減少と減体の要素は多くあります。又神宮とは、氏神（鎮守神・産土神）とはが理解されていないのではないかと、お札を何故おまつりするの、ひいては何故神宮大麻

をおまつりするの、神棚奉斎の意義を生活の文化的側面から認めなければならぬ。

テレビを見ない、新聞を読まない若い世代から年長者迄幅広く、アナログからデジタル迄様々な方法を利用して、地域によっても発信の仕方を変えていかなければならない。自分自身の説明不足・発信不足は否めない。

神宮大麻頒布増体のみを目的とせず、基本に立ち返って、氏神さまにお詣りして頂き、氏神さまへの感謝の気持ち等の意識の高揚を通して、氏神さまを大切に守ってゆく。その先に氏神の総氏神「神宮」への崇敬心を芽生えさせていきたい。各家庭には、日供、盆等一緒にすることによって後ろ姿をみせていく必要がある。

氏神さまが、身近な社、愛される社、信頼される社、地域の拠点となっていく必要があります。

今度の表彰は初心に立ち帰り見つめなおす機会となりました。

祭典を斎行して

甲府えびす講祭り

恵比寿神社例祭

稲積神社・恵比寿神社

宮司 根津 泰 昇

甲府えびす講祭りは、今年で九十回を迎えました。「えびす講祭り」は、昭和の不況であえぐ商業界に活気を入れようと昭和四年に始まり、昭和十一年には「甲府商工祭」となり、その後戦災と敗戦の打撃により、落ち込んでいた市民の気持ちを引き立たせるため斎行されました。現在は甲府商店街連盟が主催し、甲府商工会議所が共催で開催されておるイベントです。当社社の役割は、えびす講祭りの祭りの神札への神札守遷祭と甲府の中心街に設置するえびすのご神像（通称えびす神社）の御前に於いての例大祭の斎行。参列者は甲府商店街連盟会長、甲府商工会議所会長、甲府市長等々四十名程が参列します。

このえびす講祭りの全盛時代は、年末年始の買い物をする為の大きなイベントでした。私も子供

頃、えびす講



祭りを首を長くして待つていたものです。時代の変遷と共に、えびす講祭りの様相も大分変わって来ました。買い物を楽しむ一大イベントから、祭りを楽しむイベントに大きく舵が入れ替わりました。現代では神輿が二基甲府の中心街を練り歩き、担ぎ手も県内外から二百人を超える人々が集まり、セイヤ、セイヤと渡御されています。仮設のえびす神社の周りにも各種団体のお店が立ち並び、賑わいをより一層醸し出しています。

このような祭りが、次の時代へも傳承されてゆくことを期待しております。

えびす講祭りの神事を納めると、商店街連盟会長、会議所会長、市長等は湯田に鎮座する恵比寿神社へと移動し、例大祭に参列致します。本年は宗教学人承認七十周年の記念大祭なので長崎知事にも参列頂き斎行致しました。記念事業として鳥居を建立致し、益々ご神徳の宣揚に尽くしていきたいと存じます。

年男  
年女

令和七年乙巳



年男

北口本宮富士浅間神社 権禰宜 萱 沼 孝 之



思い返せば、平成九年に縁あって一般企業から北口本宮富士浅間神社に奉職することとなり、四十歳を超えて神職の仲間入りをさせて頂きました。新人と同じ右左もわからず、初任研修会を始め現任神職祭祀研修会など矢継ぎ早に参加し、自分の間違い等々で自信を失ったりと色々な経験をし、無我夢中で、アツというまに月日が過ぎ去ったことを覚えていきます。これまでの温かいご指導を頂いた神職の諸先輩方、また、世間に明るく高い見識を持つ総代さん方にお会いできたことは自分の人生に得難いものとなっています。人との繋がりは偶然でなく必然ではないかと。

現在、新型コロナウイルスも五類対応となり、さまざまな行事活動が活発になりました。最近ではご奉仕する機会は少なくなりましたが、お祭りの花火の音を聞くと「どこのお祭りか？」と職員同士聞き合ったり、時には思い出したように体を身動きしているのをふと感じます。只々年を重ねてきただけかもしれませんが、周囲の人々の助けもあり、また大神様の御縁があったからこそ生かされているとつくづく思います。

さて、私も六度目の年男となりました。日本の平均寿命は男女とも八十歳を超え、世間では人生百年ともいわれています。初心を忘れず大神様に感謝し、一人でも多くの人々に御神徳が頂けるように微力ながら貢献できればと思う次第です。

年男を迎えて

八幡神社 禰宜 藤 本文彦



東京オリンピックの翌年、昭和四十年に大月市初狩町鎮座の八幡神社の社長の長男として生を受けました。時は高度経済成長の真っ只中で3Cといわれた自家用車、カラーテレビ、クーラーが各家庭に入って来た時代です。地域においては、小学生の頃中央高速道路が大月インターから甲府盆地方面に延伸になり記念イベントに参加した際、山梨と東京がより近くなったことを覚えてます。高校は県立都留高校に進学しましたが、勉強はそこそこにはバレーボールに熱中した高校生活を過ごしました。

卒業後の進路は迷うことなく社家を嗣ぐため國學院大學進学を決意いたしました。東京へ出発する朝、家族全員で見送ってくれたことがつい昨日のこの様です。大学卒業後は団体職員との二足の草鞋でありましたが、家族や兄弟、氏子の皆さんの協力や先輩神職のご指導を仰ぎ大過なく神明奉仕を続けることができたことを感謝しております。本年は乙巳（きのとみ）の年にあたり、再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく年とされています。十年前五十歳の時に先輩神職から「神職の五十、六十は洩垂れ小僧」といわれたことがありますが、還暦を機に再生できる様自分自身を見つめ直したいと思えます。今春、甥が神職養成講習会を受講することになりますが、今後は後進の育成と私に課せられた重要な責任と考えております。神社を取りまく環境は、少子高齢化による人口減、過疎化等、厳しい状況が続きますが、伝統文化を守るため、氏子の皆さんと協力しながら神明奉仕に努めてまいりたいと思えます。



# 年女を迎えて

稲積神社 権禰宜 志 村 奈 実



昭和五十二年生（丁巳歳 五黄土星）四度目の年女を迎える事に感謝いたします。しかし改まって年女を意識したことはありませんでした。丁巳歳、六十干支のうち十三干支に属する異常干支とされており、シャイで穏やかさを持つ反面、強い個性や非凡な能力を持った干支。また、強力なエネルギーを持ち根気強い、強情な性格を持ち自立心旺盛といわれる星。幼い頃は無口で引込み思案と記憶するが、年を重ねるごとに生まれ持った性質に近づくものなのでしょうか。幼い頃巫女の装束を纏い、祖父母の仕事について回り遊んでいた記憶がよみがえりました。初めての年女、新年・大祭時に巫女としてご奉仕を初める。二度目の年女、第一〇八回神道講習会にて直階を取得。3度目の年女、稲積神社の権禰宜として御奉仕を始める。

年女は年神様の御加護を多く受けるといわれますが、過去を振り返り今更ながら感謝いたします。前述に記す特性をもつといわれていますが、学生生活、会社員においても発揮できず、その後結婚、出産、三人の育児。その期間、様々な出会い、新たな発見・経験と新鮮かつ慌ただしく充実な日々ではあるものの、凡庸でした。しかし、今回「かひがね」の原稿依頼を頂きいい機会を頂きました。これまで努力、チャレンジが身に足りずの人生を送っていました。しかし生まれ持った特性があり、生かされている限り特性を生かさなければならぬ。また、生かしたいと感じました。ありがたいことに健康な身体を頂き不自由な生活を送れています。この事に感謝しながら、五度目の年女にも御加護をいただけるように日々感謝し精進していく所存であります。

## 新年とAIと変わる社会と神社と

北口本宮富士浅間神社 権禰宜 高 阪 雄 次



この度原稿執筆のご依頼をいただきました。「何故僕個人に御指名が？僕の言なぞに何の価値が？」と不思議に思い、「年女」のお題目を見てもなお理解が追い付きませんでした。少しくして「ああそうか、僕は三十六歳の年男にあたるのか。」と膝を打ちました。

しかし年男だからと言って、僕の言になぞ皆様の御前に呈するだけの価値が生じるとはやはり思えず、これは一体何を書いたらいいのでしょうか。こういう時はやはりアレに頼りましょう。そうです、AIです。神職もAIを使う時代です。「年男にあたって何を書けばいいですか？」「お答えします。内容は自己紹介や年男にまつわるエピソード、また抱負などが良いでしょう。ポイントとしては読者の共感を得ること、面白く読みやすい文章にすること、掲載誌のテーマに合わせる事が大事です。」なるほど確かにその通り。そのように致します。

僕は神奈川県相模原市生まれ川崎市育ちで高校生時の通学先は横浜市でした。家は社家ではなく一般の家で、高校生の時に神職の道にもむろに興味を持ち、國學院大學にて資格を取りました。平成二十三年に卒業した後は当神社北口本宮にて拾っていただき、そして現在に至ります。

前年男であった二十四歳の時は何をしていたかな、と思い返せば奉職して3年目でした。そんなに長く勤めさせていただいているのか……としみじみすると同時に、果たして年数相応に成長できているのだろうかと己を顧みる次第です。

十二年前と比べすっかり普及し皆当たり前に持つようになったスマートフォン、加えて先のAIという画期的なツールの登場。IoT化はどんどんと進み、人々の生活は大きく様変わりしました。その中で神社という存在はどうあるべきものなのか、そして次に自分が年男の時ほどのような社会になっているのか。そんなことを考えながら神明奉仕に励んでいきたいと思えます。以上、お目汚し失礼致しました。

今後の予定

靖国神社、山梨県護国神社 参拝旅行

靖国神社、山梨県護国神社 参拝旅行... 恒例となりました靖国神社 参拝旅行を左記の日程で実施致します。

一、日程

令和七年三月二十六日

(水曜・仏滅)

神棚差し上げます 山梨県神社庁 TEL 〇五五二八八〇〇〇三



神社庁 ホームページ



神社関係者大会「聖寿の万歳」



神社関係者大会「豊栄の舞」

祭典日程

Table of festival dates and names for the first section, including events like '富岳町鳥沢福地八幡神社福地天神祭' and '大嶽山那賀郡神社祭'.

Table of festival dates and names for the second section, including events like '力諏訪神社春季例大祭' and '山梨県護国神社春季例大祭'.